

R. S. C. D. S.

東京ブランチレター

No. 34

初の試みソーシャル・ダンシング

成功裡に終わる

＜「東京スコットランドダンスを楽しむ会」と合同で＞

去る10月13日(日)、千代田区立総合体育館剣道場に於いて、東京ブランチ初の試みとして「ソーシャル・ダンシング」(インフォーマル・パーティー)が東京スコットランドダンスを楽しむ会と合同で行われました。

当日は80人を越す盛況でいつもの神田の例会(3~4セット)とブランチクラス(最近では4~5セット)を合計したよりも多い人達が集まってくださいました。

プログラムは一般のダンサーなら誰にでも踊れるような易しくて楽しいものを中心にして進められました。又、スコティッシュ・カントリー・ダンスだけでなく、今年度から始まったレディーズ・ステップ・ダンスのデモンストレーションや、今、アメリカで大流行の「マカレナ」(レクリエーション・ダンス)を池間ティーチャーの指導で楽しみました。それから特筆すべきは、英国全般及びアイルランドの踊りを研究している小幡さんによる我々にも馴染みのRED HOUSEのイングリッシュ・カントリー・ダンス版(こちらの方が古いらしい)の指導。と、短い時間の中に盛り沢山のメニューで楽しみました。

終わった後の反省会(?)でも、「大勢の人と踊れて楽しかった。ポピュラーな曲が多く易しい曲が多かったのが良かった」という意見が聞かれました。又、これからの課題として、「初めての人と踊るチャンスが作りにくかった。曲数が多すぎたのではないか。もっとインターバルをとってお話の出来る時間が欲しかった」という意見も多く出ました。それから、「セットを無理に作る必要は無い。"3 more couples"は不必要」という意見も出ました。これらの意見を参考にして、次回の時はより楽しいソーシャル・ダンシングにしたいと思います。

このソーシャル・ダンシングはブランチ・クラスの間仕上げのような意味があり、今後にも年に1~2回企画していく予定です。今回は神田のグループでしたが、ほかの会とも是非やってみたいと思っています。条件としては、ブランチの会員が居ること、8セット位作れる広さの会場を確保出来ること、ブランチ・クラスの延長と考えていますので土曜日か日曜日であること等です。一応、ブランチのサービスエリア内のグループを考えていますが、会員の皆様の多数の希望があれば、そこに固執するつもりはありません。さて、次のグループはどこになるか立候補を待って居ます。

ブランチクラスとソーシャル

チェアマン 池間 博之

創立10周年を経て、東京ブランチはやっとクラスをスタートしました。世界に164のブランチがあり、その活動の重要な事業がクラスの運営で会員の数を増やし質を高めます。クラスは「有資格ティーチャー」が責任をもって指導にあたります。

東京ブランチクラスも1年有余、役員、参加者、ティーチャーと三者の協力により別記アンケートのように、まずまずの成果をあげることができました。そして、10月には千代田区神田の「スコットランド・ダンスを楽しむ会」の協力を得て初めて「ソーシャル」プログラムをもつことができました。これを契機に「クラスとソーシャル」について私の考えを述べ皆様の参考にさせていただけたらと思います。

1. クラスとソーシャルとボール

クラスではSCDの基本と楽しさを学習します。初心者コースを終了した後に「パーティー・ボールの経験を積み重ね、人と人との交流、社交（ソーシャル）を楽しみます。

ソサイエティの教本(2・5)には「ソサイエティは踊りの実技、指導法の水準の高さを重要視する一方で、SCDのソーシャルな性格を強調することに努めてきた。何よりも先ず楽しさ、友達付き合いや面白さがイッパイでなければならない。」さらにミス・ミリガンの言葉に言及して「ソーシャルはダンサーの内から生み出すべきものです」と記している。

以上からも、「クラスでの学習は、パーティー・ボールに参加して喜びに満ち溢れたSCDソーシャルの世界を、参加する一人一人が心の内から生み出すことにその目的がある」ともいえます。

2. ソーシャルプログラム

この夏、カリフォルニア州 太平洋大学のダンスキャンプでマッコウエン夫妻やその他ティーチャーに指導を受ける機会があり、その折「クラスとソーシャル」について意見をうかがった。その概要は、「クラスは基本ステップ、フォーメーションから始まり、8、16、24、32小節の踊りを完成し、そのつながり、チームワーク、マナー等を学習する教育的活動で、ソーシャルは先生が生徒に教えるのと異なり、多くの参加者は平等（男と女、老人と若者、上手な人と下手な人、ティーチャーと生徒、日本人と外国人）で皆で喜びいっぱいダンスタイムを共有する。」

初心者クラスを運営して年月を経ると、初心者クラス終了後、ソーシャルの名で中級者向けに簡単なウォークスルー、トークスルーで次々とソーシャルを楽しむ時間と空間が生まれる。さらに発展すると、初心者、中・上級者、デモンストレーションクラスも独立する。

3. ソーシャルの原則

基本的な技術と知識、ソーシャルの経験のある程度積んだ人は誰でも参加出来る。平等公平の原則が優先する。そして、紹介のチャンス、自由な会話、交流の喜び、お茶か軽い食事などが付随する。（個人の財産、家柄、地位、学識、名声、特別な能力、功績には無

関係＝社交そのものが目的)

以上の他に、私たちの「SCDを踊って楽しむ社交活動」に支障をきたすことは全て除外されることになる。すなわち、ダンスの集いで適用されるマナー、エチケットとなる。特定の個人、グループを拒否したり、一部特定の人々が組織を私有化したり、又、私の意見では5000円～1万円もするボールがあちこちで頻繁に行われることも好ましくないと考えます。

日本人のSCDは世界で高い評価を得ていますが、クラスの段階で極めて熱心に学習し、真似が上手、高い集中力が踊りの順序をすばやく記憶して上手に表現できる。しかし、ソーシャルの面では まだまだ不十分といえます。一部のリーダー・役員が企画・運営・指導をするのではなく、多くの人が平等の原理で、いつでも、どこでも、どのような設定のソーシャルでも、一人一人の喜びと幸福、そして、欧米文化のSCDを東洋の島国の日本人がどう取り組むかを考える時期にきていると思います、いかがでしょうか。

ブランチクラス アンケートのまとめ

毎月1回、土曜日、6名のティーチャーが計15回のクラス(夜12回、午後3回)を担当いたしました。参加者は延べ650名、平均すると1回40人余り。最近は4～6セットと安定しています。又、7月から始めたレディース・ステップダンスのクラス(始めの1時間)はしばらく継続の予定です。

アンケートは53枚集まりましたが、毎回お願いしたので同一人からのものがありますが、参考の為に括弧内に枚数を入れ、少数意見も載せました。

〔感想〕

1. 楽しい。有意義な勉強が出来ました。(14)
2. 複数の個性的ティーチャーの指導法と協力する姿勢。(8)
3. レディース・ステップダンスは素晴らしい。継続して欲しい。(8)
4. 基礎ステップ、テクニック、フォーメーションの基本指導がよい。(8)
 - ・ ピアノは有効、ピアニストに感謝。
 - ・ 役員の方ごくろうさま、参加者は喜んでいる。
 - ・ 名札はいつも胸の上に付けましょうー賛成ー。
 - ・ 会費が安すぎる。

〔要望〕

1. 土曜日の午後も多くして欲しい。(10)
2. 会場が狭い。人数が多すぎる。(6)
3. 気軽に踊れる易しい踊りタイムを設定して欲しい。(3)
 - ・ 初心者向きのクラスを開いて欲しい。
 - ・ 指導曲のプリント(特にソサィエティ以外のダンス)の配布。
 - ・ 指導曲のテープの斡旋(年2回程度)
 - ・ ダンス実技だけでなく、音楽等他の分野のレベルアップ。
 - ・ ステップダンスとカントリーダンスの参加費、計800円値上げしないで。
 - ・ 個人的にステップの矯正指導を希望。
 - ・ クラスがマンネリ化しないよう努力して欲しい。

その他、”内容が物足りない”というマイナス評価が1通ありました。

「ダンスのエチケットに関して—すべきことと、してはいけないこと」

最初はカントリーダンスのエチケットというのは、礼儀正しい振る舞いだけではなく、女性に対する親切な振る舞いの重要性を表していた。しかし、今では私達は針金で円くふくらましたスカートをはいて踊ることはしないし、MC（司会役）が赤いコートを着てグリーン靴を履くことを期待してはいない。しかしながら、それでも礼儀正しい振る舞いや思いやりに基づいた簡単なルールを守ることは、今でも非常に必要なことなのです。次にいくつかのガイドラインを示しますが、これはフィラデルフィアのジェフリー アンド セシリー セリング (Geoffrey and Cecily Selling of Philadelphia)によって書かれたものを部分的に借用したものです。

1. 誰にでも自由に「ダンスを踊ってくれるよう」に頼みなさい。最近では正式な紹介は必要ありませんし、パートナーは同性であっても異性であっても構いません。
2. いろいろ違ったパートナーと踊るようにつとめなさい。あなたがアドヴァンスト・ダンサーなら、ビギナーをその人が踊れそうなダンスに誘ってあげなさい。あなたと踊ったことで、そのビギナーはとても楽しい時を過ごしたことになるでしょう。
3. セットに歩いて行く時には、パートナーに優しく手を差し延べなさい。パートナーにダンスを頼む時は、自分達の入る余地があることを確かめてからにしてください。
4. 会場のいろいろ異なった場所で踊るようにしてください。あなたがアドヴァンスト・ダンサーであるとしても、ラインのトップの位置を自分の特別席のように考えて独占してはいけません。
5. セットに入る時には、必ずボトム（下側）に入るようにしましょう。上の方にもぐり込んではいけません。もし 4thカップルとして踊り始めたい時には、セットが出来上がってから他のカップルに位置を変わってくれるように頼みなさい。スクエアセットに加わる時には、そこにあるセットが既に全部出来上がっていることを確かめてから、新しいセットを作るようにしてください。
6. それぞれのラインのファーストマン又はファーストカップルは、自分達のラインのセットを数え、あと何カップル必要かMCに合図しなさい。
7. セットを作っている最中は、ラインから動かないにしてください。数え違いが起き、混乱するから。
8. あなたがそのセットの中で他の人よりは経験が豊富なら、どっちの方向へ行ったら良いかをシグサや、正しい手や肩を差しのべることで知らせてあげなさい。言葉で教える時は、ごく簡単な言葉だけにしてください。叫んだり押ししたりしてはいけません。できれば、それぞれのパートナーが助ける方が良いでしょう。
9. 高齢であったり体力のないダンサーに対しては、あなたのテクニックを犠牲にしても特別に援助をしてあげなさい。
10. リラックスしてセットの中の人々に微笑みかけなさい。誰でも間違いをするという事を忘れてはいけません。ダンス（セット）が壊れたら、静かにして次次のフレーズ又は次の回から踊れるように準備していなさい。
11. ダンスが終わったら、パートナーだけでなくセットの人達皆に感謝しなさい。——皆があなたの楽しさに貢献してくれたのですから。直ぐに走り去ってはいけません。
12. 次のセットを作る前にいったんフロアを空け、MCが次のダンスが始まることを指示するまでは、セットを作ってはいけません。

13. 踊る前にダンスを要約してくれない（注：トークスルーなど）グループ主催のダンスにあなたが出席している時、そのダンスを知らないのなら踊ろうとして立ってはいけません。ダンスをブリーフィング（要約、トークスルー）してくれるとしても、あなたがそのフィギュアをよく知っているかどうか確かめなさい。
14. ダンス・フロアに立っているときは、カンニング・ペーパー（注：ダイアグラム等）を見るようなことは避けましょう。――そこは社交の場なのですから。あらかじめダンスを勉強してきなさい。又、ダンスとダンスの間に素早く復習するようにしなさい
15. どうぞボールを楽しんでください。

（"The Tartan Times" より）

「われわれは何を踊るべきか」について

東久留米市 小幡正明

東京ランチレター No.33 に、「われわれは何を踊るべきか」と題して4人の意見が翻訳・掲載されました。日頃この種の意見を目にする事、まして日本語で読める機会は大変少ないもので、私は興味を持って読みましたが、以下に感想と意見を述べます。

まず、ボールのプログラムとウォークスルーについてです。これはダンスの新旧にかかわらず、皆が知らないダンスばかりをプログラムにするのは困ったもので、少なくとも皆に知られているものを中心に選定すべきだと思います。そうすれば自然とウォークスルーは少なくなるでしょう。私は基本的にはボールでのウォークスルーは止めたいと思います。勿論、良い雰囲気作りのためですが、そのためにはプログラムを早い時期に公表することが必要になりますし、また、アヤフヤな曲は踊らないことになるかも知れませんが、それでも良いじゃありませんか。

続いて、ボールのプログラム以外でも「何を踊るべきか」ですが、私はトラディショナルなものだけにこだわる必要はないと思います。ジョン・マーシャル氏の言葉を引用して言えば（レター No.33 P.12 7行目）「もし古いダンスが私たちに多くの楽しみを与えてくれるとすれば、」の「古い」を「新しい」に、或いは「与えてくれる」を「与えてくれない」と読み替えてみたらどうなるでしょうか。

古いダンスも初めは新しかった筈で、好まれて踊られ続けた結果、今日に到っているのです。そして、記録されても踊られなくなるダンスも多く、Book 23 までの中にも沢山あることはご承知の通りです。新しいダンスがドンドン作られ、楽しめるものが残っていく、或いはその地域の言葉のように、独自のダンスになっていく、それで良いのではないのでしょうか。

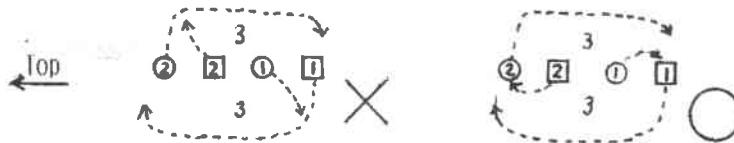
もう一つマーシャル氏の言葉から引用します。（P.12の最後の行）「ダンスは少なくなくて良いのです。少なければ」とありますが、これが「古き良き時代のSCD」の、ローカルな、閉鎖的な社会での状況だったのでしょう。しかし、「古き良き時代」にスコットランドの何処でも同じ踊りが等しく踊られていたとは思えません。 Book 4~10に 'collected in ~' とある多くのダンスもそれを裏付けています。現在、SCDはインターナショナルな存在となっています。それはSCDの持つ特性≪基本を身につければ、どの踊りにも応用出来て楽しく踊れる：スコットランド人でなくとも≫とともにRSCDSの功績によっており、もはや後戻りは考えられません。

Book 39 Dancesの留意事項

1996年 8月、サマースクールにおいて TeacherのMrs Margot Priestley マーゴ・プリースリー および Mrs Anita Mackenzie アニタ・マッケンジー から指導されたBook 39 Dancesの留意事項を以下に述べます。

Swiss Lassie

Bars 17 Chasingのスタートにおいて、2nd woman および1st man はすぐにセットの外に向かうのではなく、いったんパートナーの軌跡をたどって外に進む。



21 Advanceは 3 couples一斉にスタートする（凸凹にならないように）。もちろん SideでJoin hands.

28-29 Right hands acrossの終り、2nd coupleはSide line に戻り、ついでBars 29 の Right hands 1/2 turnに移る。（解説のとおり）

Joie de Vivre

カタカナで表現するとジョワ・ド・ヴィーヴル（ビーブルでもよい）。

Bars 17 Back to back は 3 couples一斉にスタートする（凸凹にならないように）。

23-24 Turn をしてから手をあげる（早すぎるとその下で回るようになってしまう）。

The New Virginia Reel

Bars 17-18 of Fig A Slip across は弧を描くように動き、19-20 では（なるべく）中央でOn the spotのSetting となるように。Bars 21-22, 25-26, 29-30も同じ。

Bars 1- 8 of Fig C 2nd and 4th couples は1st or 3rd couplesが通りやすいようにパートナーとの間隔をやや広めに開けておく。（解説のとおり）

9-16 of Fig C 2nd and 4th couples は1st or 3rd couplesが動きやすいようにパートナーとの間隔を、こんどはつめる。（解説のとおり）

上記2項はBars 17-32で1st and 3rd couples が行なう。

Bars 1-16 of Fig D Rights and Leftsの定石どおり、4つのpointsを確実に通過する。

Ending Partner と手を取り合ったままBow and curtsey（他のSquare set dancesでも同じ）。

Cape Town Wedding

Bars 7- 8 ここまでRight hands joined. Bars 9になってPromenade hold.

9-16 Reel of three across はSide line から外にふくらまないように。（ビデオ参照）

21-22 最初から手をつなぐず、Set しながらサークルをつくる。

The Immigrant Lass

- Bars 8 PartnerのOriginal placeへ入る。
- 12-13 Half rights and leftsで 1st and 2nd couplesは、かならずPolite turnで締め、
ついて1st coupleは3rd coupleとのHalf rights and leftsに移る。
- 25 1st manはLadies chainのあとは余裕がないので、4th manがリードする。
- 28 1st and 4th menはTop側をOwn side方向に動き、1st and 4th womenはRight handsの下をLeft shoulderをパートナーの胸に向けるように動いてChange side and facing down。

Le Moulin Rouge

カタカナ表記はル・ムーラン・ルージュ(ル・ムラン・ルージュに近い)。Rosaceはロザス。

- Bars 1-4 All men, Partnerの前をとおりすぎる。
- 8 All menは、いわばPolite turnしてFacing in。(解説のとおり)
- 25-28 RosaceのChange placeは花びらのようにふくらみをもたせて。
- 53-56 All women, On the spot for 1st bars, Moving slightly on 2nd bars and then 1/2 turn left about。

The Duke and Duchess of Edinburgh

- Bars 8-9 1st coupleがNearer hands joinedでFacing to the topし、ついてCast offするやり方もあり、どちらも正しい。(解説のNotes 2.)
- 16 ビデオでは、1st coupleはSide lineから3-hands acrossに入っているが、解説のとおりSetの真ん中まで進むべきと思う。(これはマーゴではなく、筆者の見解)
- 31-32 2nd roundにおいて、Dancing coupleはTurn corners and partnerの終りに4th placeに移動し、ついて6-hands round and backに移る(ただし1st-3rd coupleのみ)。

The Robertson Rant

解説のNotesをよく読むこと。

- Bars 9-16 9-10 および13-14でAll men dance to partners' placeでも、Still standでもよい。(ビデオはDanceしている)
- 17-18 1st and 3rd couplesによるReel of fourであるが、この2-bars, 1st and 3rd menは、SetまたはStill standいずれでもよい。(ビデオはSetしている)
33-34も同じ。
- 24 1st and 3rd couples, partnerといった顔を合わせてFacing corners。(ビデオ参照) 39-40も同じ。
- 25-28 Highland Schottischeにおいて、女性が男性役をやる場合、その女性は手をかざさない。41-44も同じ。

29-32 Turn twice with both hands .

49-52 All men, 少し右へ動いてきれいな十字に。

57-60 All women, 右肩を引いてPartner と向かいあう。

Prince Charles of Edinburgh

Bars 29-32 of Fig 2 All men passing Left shoulders. 横のCoupleにあいさつしながら通り過ぎる。

33-36 of Fig 2 All men はまわりこんでfacing centre .

9-24 of Fig 3 ビデオでは男性は片手をかざしているが、解説のとおりいわばバック・クロス・ホールドでSwing すべき (やりにくい) 。

By Shigeko Igarashi, Hitomi Sato & Tom Toriyama

地方でも <Book 39 > の講習会開かれる

東京ランチでは去る 9月29日(日)秋葉原のパークサイド・プラザに於いて、今年RSCDSより出されたBook 39 の講習会を開きましたが、中々一度の講習会では全国へ普及させることは難しく、特に地方の人達にとっては皆で東京まで出ていくことは大変なことだと思います。そこでランチでは、地方のグループが単体で、或いはいくつかが集まって地元で講習会を開くお手伝いをしようと思っています。今年は、新潟と秋田で講習会が開かれましたが、以下は新潟での講習会のレポートです。

「10月25日(金)新潟スコティッシュ・ダンス・クラブは、佐藤仁美ティーチャーの派遣を得て、クラスを開催させて頂きました。参加者はクラブ員と新潟市内の愛好者で42名。会場がいつもの例会場が借りられず旧高校の体育館半面を使用しました。広すぎる上にワイヤレス・マイクは無く、普段はピアノの演奏で指導をされていらっしゃるのにテープでやっていただき、講師には難儀と不便をおかけいたしました。そんな状態にあったせいか皆の受講態度は良かったように思います。クラス内容は本来ティーチャーにお任せすべきなのかも知れませんが、この度は Book 39をお願いしました。下記の3曲を取り上げ、基本的事柄の欠けている点も指導して下さいました。午後1時から4時までの3時間ティータイムをはさんで励み、良い汗をかき満足をして解散しました。

指導曲

Joie de Vivre Le Moulin Rouge Cape Town Wedding

新潟 S. C. D. 菊池 順

RSCDS 東京ランチレター 1996.12.20. 発行
RSCDS 東京ランチ
セクレタリ 稲垣 俊
〒370 高崎市上中居町290
☎0273-27-3886